

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2017年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期見通し

2016年8月3日
オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員 CFO
竹内 康雄

第1四半期実績

- 連結：円高の影響を主要因に減収減益
- 医療：為替影響を除いた現地通貨ベースでは堅調な推移

通期業績見通し

- 連結：為替前提の変更、熊本地震による影響を織り込み、業績見通しを修正
- 医療：需要動向に変化は無く、為替影響を除いた現地通貨ベースの期初見通しを達成できる見通し

2017年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

2017年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況（前年同期比）

① 円高影響（売上高:173億円/営業利益:37億円）等により、売上高は10%減収、営業利益は37%減益

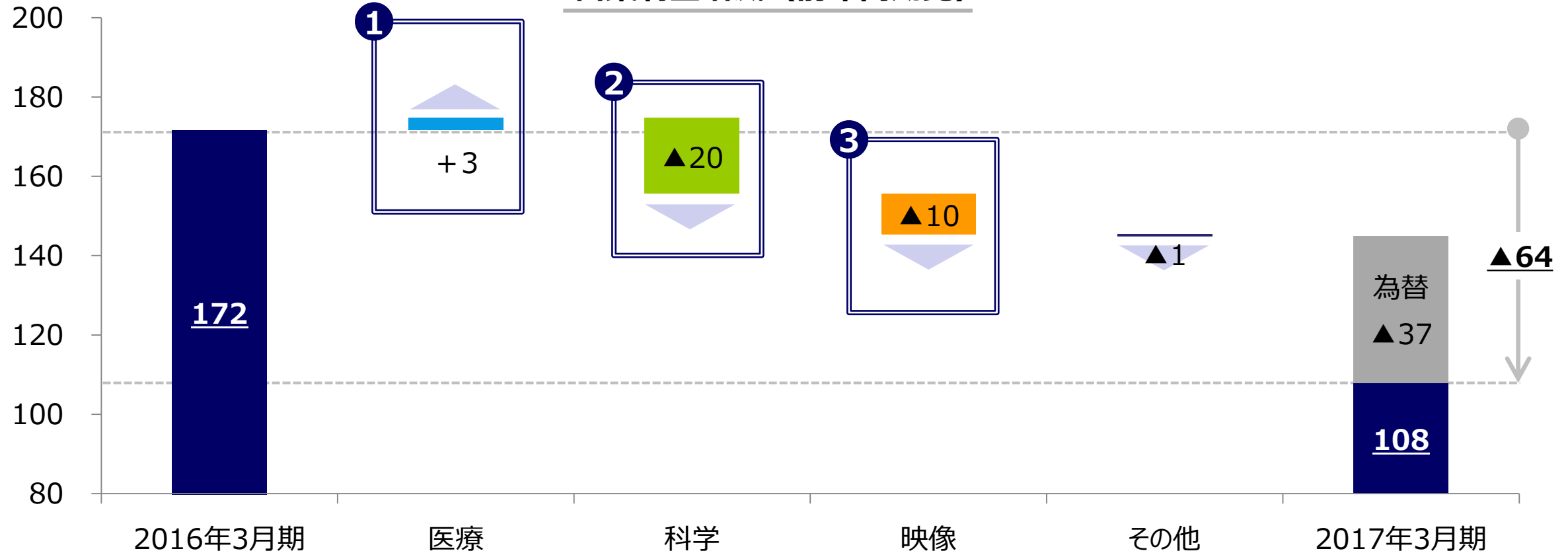
(単位：億円)	1Q累計（4-6月）		増減額	前年同期比	為替影響調整後
	2016年3月期	2017年3月期			
売上高	1,876	1,684	▲191	▲10%	▲1%
売上総利益 (売上総利益率)	1,217 (64.9%)	1,120 (66.5%)	▲97 (+1.6pt)	▲8%	-
営業利益 (営業利益率)	172 (9.2%)	108 (6.4%)	▲64 (▲2.8pt)	▲37%	▲16%
経常利益 (経常利益率)	167 (8.9%)	83 (4.9%)	▲84 (▲4.0pt)	▲50%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	167 (8.9%)	85 (5.1%)	▲82 (▲3.8pt)	▲49%	
円/USドル	121円	108円	▲13円 (円高)		
円/Euro	134円	122円	▲12円 (円高)		
影響額：売上高	-	▲173億円			
影響額：営業利益	-	▲37億円			

2017年3月期 第1四半期実績 ②営業利益増減要因（前年同期比）

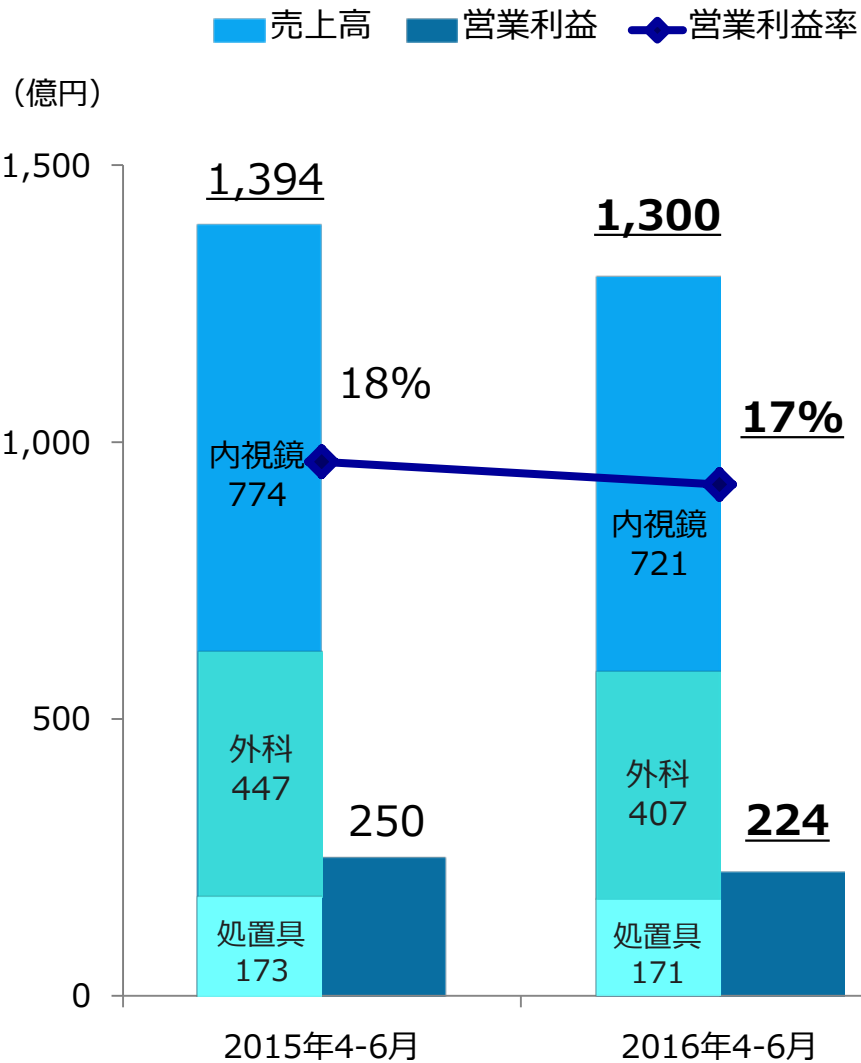
- 為替影響を除く現地通貨ベースでは
- ① 医療事業：実質増益を確保
 - ② 科学事業：資源安や研究予算停滞の影響による売上減少を受け、減益
 - ③ 映像事業：売上減少により、減益

(単位：億円)

営業利益増減（前年同期比）



2017年3月期 第1四半期実績 ③医療事業



(単位：億円)	実績数値		為替影響	成長率	
	2015年4-6月	2016年4-6月		円ベース	現地通貨ベース
売上高	1,394	1,300	▲135	▲7%	+3%
内視鏡	774	721	▲76	▲7%	+3%
外科	447	407	▲45	▲9%	+1%
処置具	173	171	▲14	▲1%	+7%
営業利益	250	224	▲29	▲10%	+1%
営業利益率	18%	17%	-	▲1pt	-

■ 為替影響により減収減益も、現地通貨ベースでは前年並みを確保

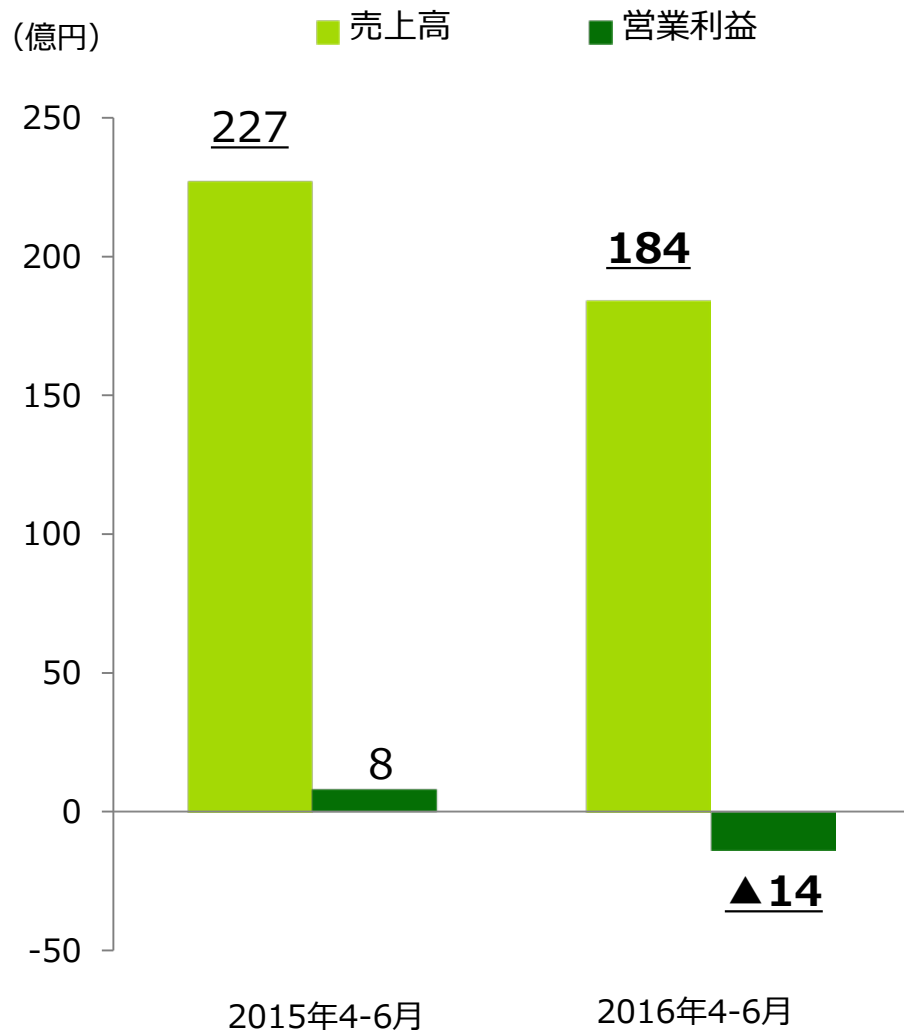
- 内視鏡 : 拡大内視鏡販売（日本）、EXERA III（欧州）の販売が堅調に推移
- 外科 : サンダービートなど、エネルギーデバイスの販売が好調に推移し、前年並みの売上を確保
- 処置具 : 販売体制強化の効果に加え、競争力のある製品群（ESD、ERCP、止血等）の拡販により、好調に推移

2017年3月期 第1四半期実績 ③医療事業（現地通貨ベース成長率）

- 日本：シングルユースデバイス（処置具、エネルギーデバイス）が好調に推移し、概ね期初見通しに沿った成長
- ▲ 北米：消化器内視鏡分野における商談の長期化が主要因となり、期初見通しを下回る成長
- 欧州：全分野で堅調（シングルユースデバイスは特に好調）に推移し、期初見通しに沿った成長
- ◎ アジア・オセアニア：消化器内視鏡・外科分野が大変好調に推移し、期初見通しを上回る成長

地域別	FY2015				FY2016				FY2017
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
日本	3%	6%	▲11%	2%	▲3%	6%	4%	5%	3%
北米	10%	▲3%	12%	14%	5%	9%	4%	3%	▲4%
欧州	12%	10%	5%	1%	8%	11%	6%	5%	5%
アジア・オセアニア	6%	26%	30%	13%	20%	8%	4%	11%	23%
連結	8%	7%	7%	7%	7%	9%	4%	5%	3%

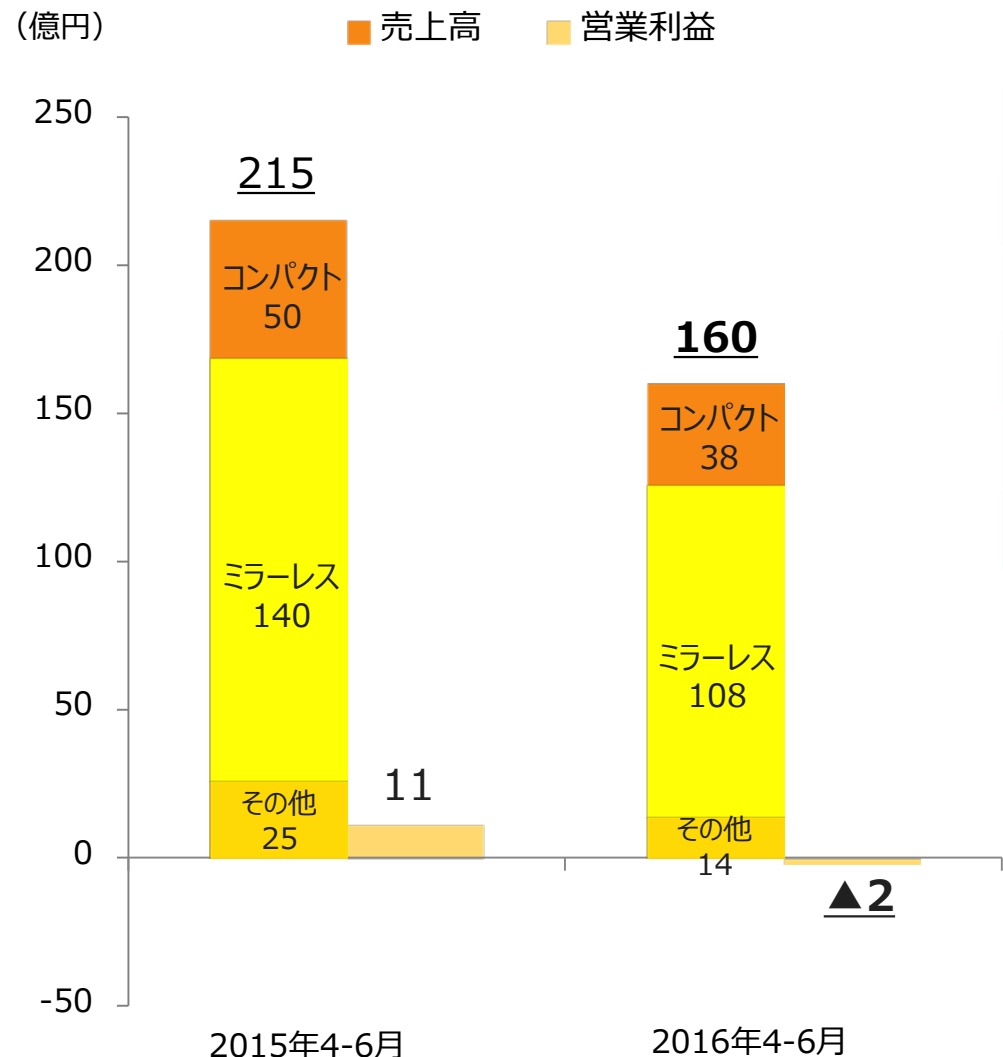
2017年3月期 第1四半期実績 ④科学事業



(単位：億円)	実績数値		為替影響	成長率	
	2015年4-6月	2016年4-6月		円ベース	現地通貨ベース
売上高	227	184	▲20	▲19%	▲10%
営業利益	8	▲14	▲2	—	—
営業利益率	3%	—	—	—	—

- 先進国を中心とした研究予算の抑制や資源安による資源関連投資の低迷、円高の影響等の外部環境要因
- システム移行に伴う出荷遅れ、一部製品の品質問題による販売の遅れ等の当社固有の要因

2017年3月期 第1四半期実績 ⑤映像事業



(単位：億円)	実績数値		為替影響	成長率	
	2015年4-6月	2016年4-6月		円ベース	現地通貨ベース
売上高	215	160	▲16	▲26%	▲18%
コンパクト	50	38	▲3	▲25%	▲19%
ミラーレス	140	108	▲12	▲23%	▲14%
その他	25	14	▲1	▲43%	▲38%
営業利益	11	▲2	▲3	-	-
営業利益率	5%	-	-	-	-

- 熊本地震の影響によるミラーレス市場の一時的な低迷に加え、今期は新製品が年後半に予定されていることから、減収減益
 - 収益性の高い交換レンズは、当社シェアが高い日本や欧州において計画比でプラス成長となり利益面で貢献（利益面では期初の見通しに沿った進捗）

連結貸借対照表 (2016年6月末)

- ① デジカメ在庫は12億円減の132億円
- ② 円高により、自己資本比率は36.9%

(単位：億円)	2016年 3月末	2016年 6月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,207 (144)	4,982 (132)	▲225 (▲12)
有形固定資産	1,661	1,585	▲76
無形固定資産	1,508	1,343	▲165
投資その他資産	1,631	1,563	▲68
資産合計	10,006	9,473	▲533

	2016年 3月末	2016年 6月末	増減額
流動負債	2,666	2,567	▲99
固定負債 (内：社債・長期借入金)	3,497 (2,645)	3,392 (2,583)	▲105 (▲61)
純資産	3,843	3,514	▲329
(自己資本比率)	(38.2%)	(36.9%)	(▲1.3pt)
負債 純資産 合計	10,006	9,473	▲533

有利子負債 : 3,213億円 (2016年3月末比 +2億円)

純有利子負債 : 1,517億円 (2016年3月末比 ▲29億円)

連結キャッシュフロー計算書（2016年4月～6月）

（単位：億円）		2016年3月期1Q	2017年3月期1Q	増減
売上高		1,876	1,684	▲191
営業利益		172	108	▲64
	（営業利益率）	9.2%	6.4%	▲2.8pt
	営業CF	305	265	▲40
	投資CF	▲104	▲129	▲24
	財務CF	▲92	▲1	+91
キャッシュフロー		109	135	+26
フリーキャッシュフロー		201	136	▲65
現金及び現金同等物期末残高		2,241	1,694	▲548
減価償却費		96	109	+14
のれん償却額		25	22	▲3
設備投資額		162	177	+14

2017年3月期 通期業績見通し

期初における環境認識

- 中国を始めとした新興国経済の成長率鈍化
- 円高トレンドの進行



現時点における環境認識

- 中国を始めとした新興国経済の成長率鈍化
- **Brexitによる一段の円高**
- **資源安の長期化**
- **熊本地震**

- より一段の円高 / 資源安の継続 / 熊本地震の影響
- 医療事業の中長期的な需要動向は不変

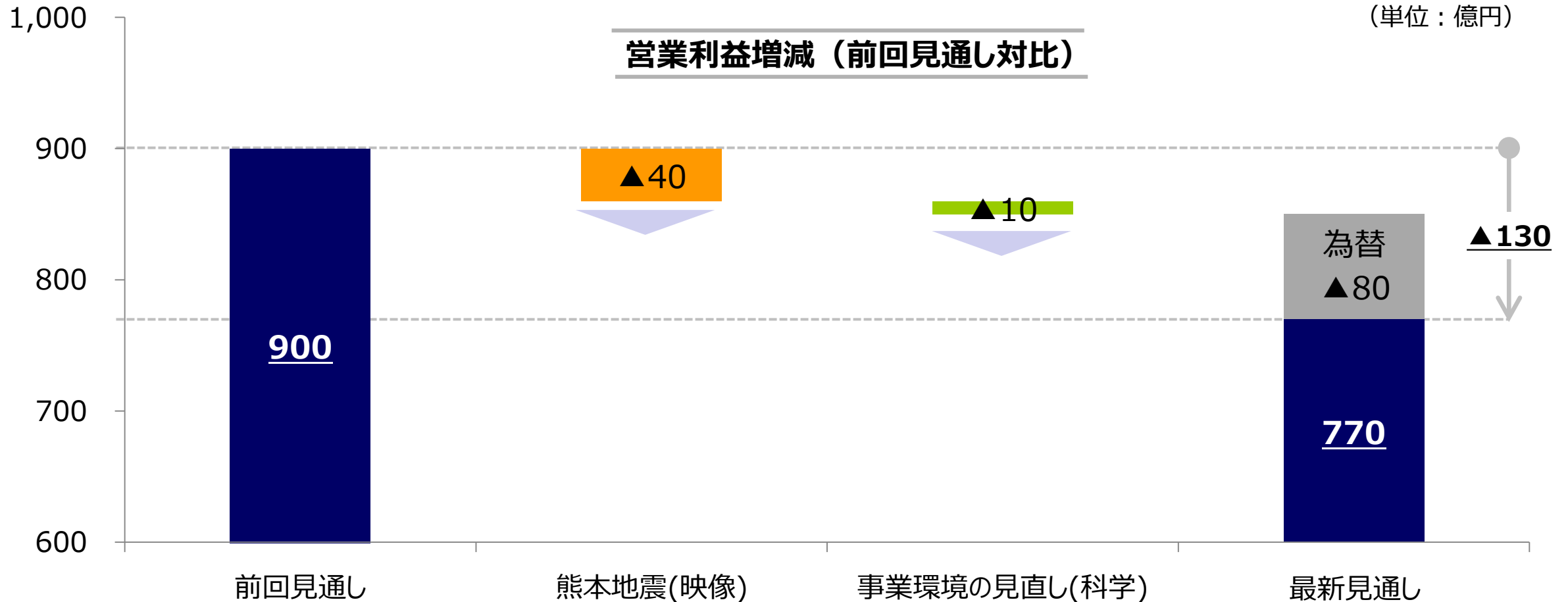
2017年3月期 通期業績見通し

- ① 為替前提の変更および熊本地震の影響等を織り込み、通期業績見通しを修正
- ② 当期純利益は570億円と過去最高の前期に次ぐ高水準を確保できる見通し

(単位：億円)	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (前回見通し)	2017年3月期 (最新見通し)	増減額	前期比	為替影響調整後
売上高	8,046	8,000	7,750	▲250	▲4%	+5%
売上総利益 (売上総利益率)	5,352 (66.5%)	5,310 (66.4%)	5,138 (66.3%)	▲172 (▲0.1pt)	▲4%	-
営業利益 (営業利益率)	1,045 (13.0%)	900 (11.3%)	770 (9.9%)	▲130 (▲1.4pt)	▲26%	+2%
経常利益 (経常利益率)	909 (11.3%)	800 (10.0%)	670 (8.6%)	▲130 (▲1.4pt)	▲26%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	626 (7.8%)	650 (8.1%)	570 (7.4%)	▲80 (▲0.7pt)	▲9%	
EPS (円)	183	190	167	▲23	▲9%	
円/USドル	120円	108円	106円	▲2円 (円高)	▲14円 (円高)	
円/Euro	133円	120円	117円	▲3円 (円高)	▲16円 (円高)	

2017年3月期 通期業績見通し 営業利益増減要因（前回見通し対比）

- 為替変動（円高）の影響を反映
- 映像事業／科学事業は、熊本地震、事業環境の見直しを織り込む
- 医療事業の年間ベースでの需要・引き合いは厚く、現地通貨ベースでは期初見通しを達成できる見込み



日本

- 堅調な実績となった第1四半期に引き続き、好調なシングルユースデバイス（エネルギーデバイス・処置具）の拡販に加え、拡大内視鏡（日本）を始めとした消化器内視鏡の更新を進め、現地通貨ベースで期初目標を達成する見込み

欧州

アジア・オセアニア

- 新興国経済の不透明さはあるものの、通期目標に対して引き合いは十分にあり、現地通貨ベースで期初目標は達成する見込み

北米

- 第1四半期はマイナス成長となったが、通期目標に対して引き合いは十分にあり、現地通貨ベースで期初目標は達成する見込み
 - 消化器内視鏡：通期目標に対して引き合いは十分にあり、第2四半期以降、販促活動の強化等によって着実に実績へと結び付ける
 - 外科：3D、4K内視鏡の豊富な引き合いを着実に実績へと結び付ける
 - 処置具：好調な実績の第1四半期に続き、差別化製品による訴求、内視鏡セット販売により拡販

第1四半期トピックス

トピックス① 取締役会評価の実施と結果について（2016年6月28日公表）

■ 取締役会の構成や委員会運営、社外取締役に対する支援体制等、実行性が確保されており、総じて高評価

昨年同様に高評価の項目

- 指名、報酬、コンプライアンスの各委員会の運営・役割について
- 社外取締役に対する支援体制について
- 監査役の役割について

昨年から改善した項目

- 取締役会の運営状況について
 - ✓ オープンで活発な議論、中長期の経営課題に対する議論の充実に取り組み、評価が改善
 - 投資家・株主との関係について
 - ✓ 体系的かつ全体感を伴った形でのフィードバックを定期的実施する体制を整えたこと（四半期毎に報告）により、評価が改善
- ※ 取締役会の機能の発揮について
- ✓ 今年度から設問を追加し、アンケートの内容自体も改善

トピックス② IFRS任意適用について（2016年6月17日適時開示）

■ 2018年3月期決算から、従来の日本基準に替えて任意適用

● IFRSへの移行に伴う開示スケジュール

2017年3月期	2017年4月	決算短信（2018年3月期見通しをIFRS基準で開示予定） 連結計算書類	日本基準
	2017年6月	有価証券報告書	
2018年3月期 第1四半期	2017年7月	決算短信	IFRS
		四半期報告書	

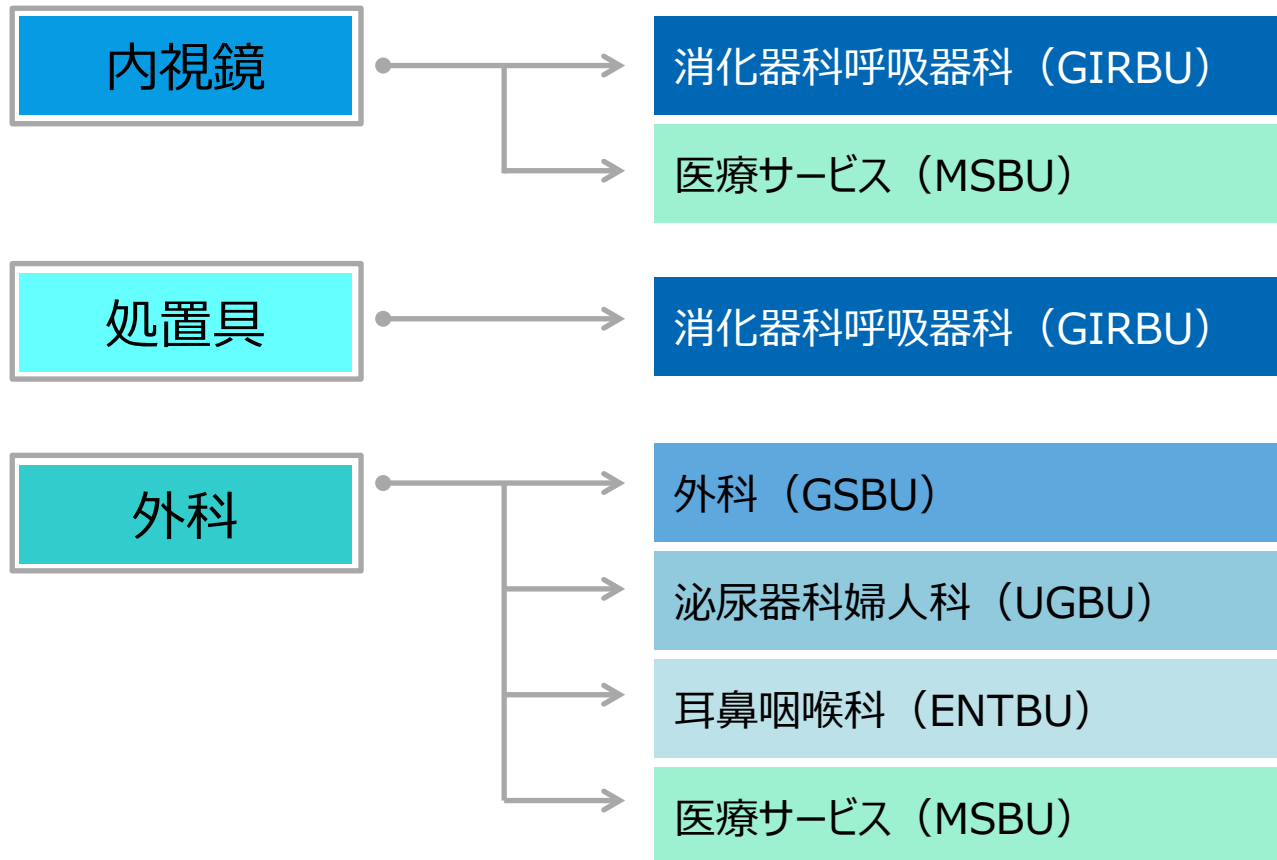
● IFRS適用後の16CSP最終年度の目標水準

(単位：億円)	2021年3月期（日本基準）	2021年3月期（IFRS）	増減
売上高	11,000	11,000	-
営業利益	1,700	1,800	+100
当期純利益	1,100	1,200	+100

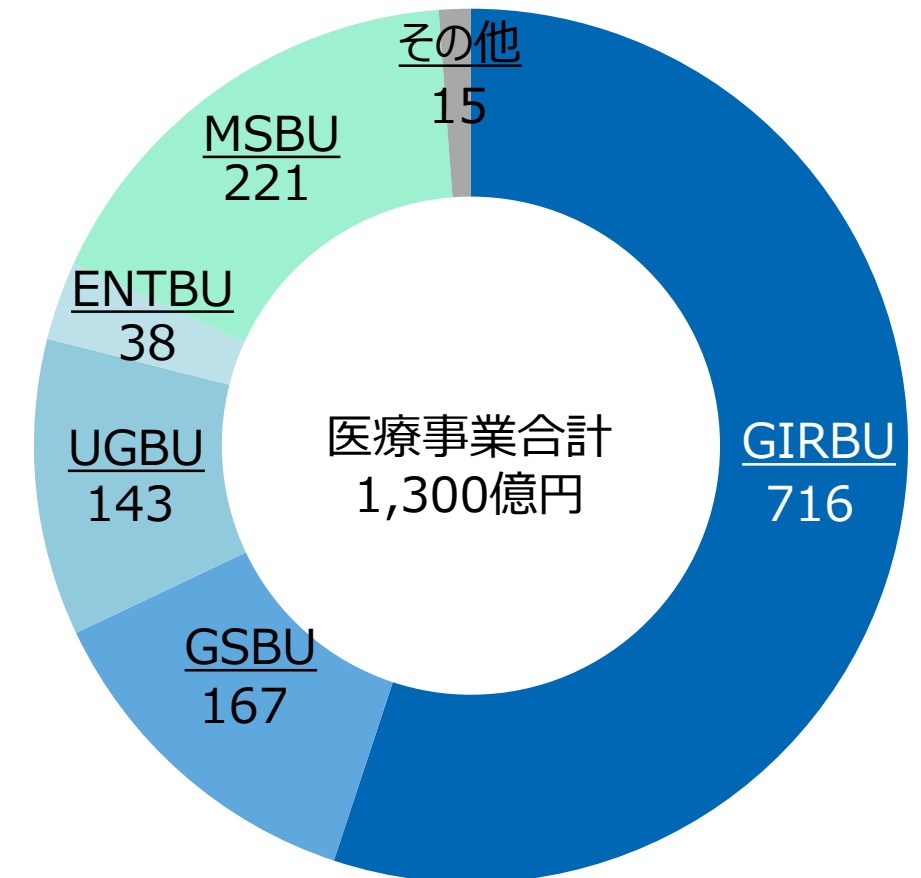
トピックス③ 医療事業ユニット（BU）別売上高開示（参考数値）について

- 参考値としてBU別売上高を2017年3月期第1四半期より決算参考資料で開示

【組替後イメージ】



【2017年3月期 第1四半期売上高】（単位：億円）



OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

參考資料

【参考資料】 2017年3月期 セグメント別業績見通し（通期）

(単位：億円)		2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (前回見通し)	2017年3月期 (最新見通し)	増減額	前期比	為替影響調整後
医療	売上高	6,089	6,100	5,980	▲120	▲2%	+8%
	営業利益	1,402	1,270	1,200	▲70	▲14%	+5%
科学	売上高	1,016	1,000	960	▲40	▲6%	+4%
	営業利益	85	60	40	▲20	▲53%	▲2%
映像	売上高	783	700	620	▲80	▲21%	▲15%
	営業利益	▲21	0	▲40	▲40	—	—
その他 (新事業)	売上高	158	200	190	▲10	+21%	+23%
	営業利益	▲58	▲60	▲60	—	—	—
全社・消去	売上高	—	—	—	—	—	—
	営業利益	▲364	▲370	▲370	—	—	—
合計	売上高	8,046	8,000	7,750	▲250	▲4%	+5%
	営業利益	1,045	900	770	▲130	▲26%	+2%

【参考資料】 2017年3月期 連結業績見通し（上期／下期）

(単位：億円)	2016年3月期（実績）		2017年3月期（見通し）		前年同期比（%）		2017年3月期（前回見通し）	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	3,958	4,088	3,660	4,090	▲8%	+0%	3,800	4,200
営業利益 (営業利益率)	501 (12.7%)	544 (13.3%)	290 (7.9%)	480 (11.7%)	▲42%	▲12%	370 (9.7%)	530 (12.6%)
営業外収支	▲66	▲70	▲40	▲60	-	-	▲50	▲50
経常利益 (経常利益率)	435 (11.0%)	474 (11.3%)	250 (6.8%)	420 (10.3%)	▲43%	▲11%	320 (8.4%)	480 (11.4%)
当期純利益 (当期純利益率)	358 (9.0%)	268 (6.6%)	200 (5.5%)	370 (9.0%)	▲44%	+38%	270 (7.1%)	380 (9.1%)

【参考資料】 2017年3月期 セグメント別業績見通し（上期／下期）

(単位：億円)		2016年3月期（実績）		2017年3月期（見通し）		前年同期比（%）		2017年3月期（前回見通し）	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
医療	売上高	2,979	3,110	2,830	3,150	▲5%	1%	2,920	3,180
	営業利益	679	723	520	680	▲23%	▲6%	590	680
科学	売上高	485	531	440	520	▲9%	▲2%	470	530
	営業利益	33	52	0	40	-	▲22%	10	50
映像	売上高	415	368	300	320	▲28%	▲13%	320	380
	営業利益	0	▲21	▲20	▲20	-	-	▲20	20
その他 （新事業）	売上高	79	79	90	100	+14%	+27%	90	110
	営業利益	▲33	▲26	▲30	▲30	-	-	▲30	▲30
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲179	▲185	▲180	▲190	-	-	▲180	▲190
連結合計	売上高	3,958	4,088	3,660	4,090	▲8%	+0%	3,800	4,200
	営業利益	501	544	290	480	▲42%	▲12%	370	530